

地方創生の成果や課題を踏まえ
「地方創生2.0」の起動に取り組む

地方創生担当大臣 伊東 良孝

はじめに、能登半島での地震や大雨、各地で発生した災害により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被害にあわれた方々に心からお見舞いを申し上げます。

さて、本日は、全国町村長大会が盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。また、町村長の皆様におかれましては、平素より、地方創生の推進にあたりご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

政府としては、これまで地方創生の4つの柱である

- ① 地方に仕事をつくる、
- ② 人の流れをつくる
- ③ 結婚・出産子育ての希望をかなえる
- ④ 魅力的な地域づくり

に沿って施策を推進してきた結果、地方創生の好事例が出てきており、全国各地にその輪を広げていくべきと考えております。

本年は、地方創生の取組が始まってから十年の節目であり、これまでの地方創生の取組の成果や課題を踏まえ、日本経済成長の起爆剤としての地方創生策を講じるとともに、ヒト・モノ・カネの東京一極集中の弊害を是正していく必要があります。

また、先ほど緊急宣言がございましたが、都市も地方も、安心安全で心豊かに暮らせる持続可能な地域経済社会を創っていく必要性も強く認識しているところで

このため、「地方の未来を創り、地方を守る」「地方こそ成長の主演」との考え方に立って、地方創生2.0を起動するべく、関係大臣と協力して、内閣の取り組む重要テーマとして、地方創生にしっかりと取り組んでまいります。

具体的には、先日、第1回目の「新しい地方経済・生活環境創生本部」を開催し、有識者会議である「新しい地方経済・生活環境創生会議」の設置を行うなど、地方創生に係る議論を開始したところでございます。

新地方創生本部においては、
・安心して働き、暮らせる地方の生活環境の創生

- ・東京一極集中のリスクに対応した人や企業の地方分散
- ・付加価値創出型の新しい地方経済の創生
- ・デジタル・新技術の徹底活用
- ・「産官学金労言士」のステークホルダーの連携と国民的な機運醸成

といった点を柱として、「基本的な考え方」を年末に向けて取りまとめてまいりたいと考えております。

地方創生を実現していくためには、地方の思いを大切にし、町村会をはじめとした関係者の声に耳を傾け、国・地方・国民が一緒になって取り組む必要があるので、皆様におかれましても、引き続き、ご理解とご協力の程、お願いいたします。

また、私は、大阪・関西万博の担当でもあります。来年四月十三日の万博開幕まで、五か月を切ったところです。

皆様にもパンフレットをお届けしたいと思いますが、海外から一般の方々・ビジネス関係者・有識者など多くの方々が来場する万博は、地方創生を加速するチャンスでもあると考えております。

万博を契機として、観光誘客・国際交流・ビジネスマッチング等の様々な取組が計画されており、その効果が

最大限発揮されるよう、町村長の皆様と一緒に取り組んでまいりたいと考えております。

結びに、全国町村会の益々のご発展と、ご参会の皆様のご健勝を祈念し、挨拶いたします。